



外国出張報告書

平成28年1月4日

1. 出張国名 タイ
2. 出張月 平成27年11月～12月
3. 出張目的 東北タイにおける低適性土壌改良試験に係る現地測定と成果発表：C

4. 成果の概要

タイ・コンケンにおいて実施している、保水性の低い砂質土壌の苗畑に土壌改良資材を添加してチーク苗を植栽する試験について、乾季初期のチークの成長と光合成速度、水利用特性を測定した。また、一部の苗木をサンプリングし葉・幹・根の乾重量を測定するとともに根の一部についてはアーバスキュラー菌根菌の感染率を算出した。2015年10月時点と比べ、11月の土壌の含水率は低下し多くの処理区で樹高成長は止まっていた。しかし、施肥区ではこの間の樹高成長がみられた。光合成速度や水ポテンシャル値は10月より低下していたが、水ストレスを受けている個体は少なかった。チーク苗の乾重量はいずれの器官も肥料とベントナイトを添加した処理区で最も重く、無添加の処理区で最も軽かった。アーバスキュラー菌根菌の感染率はいずれの個体も75%以上の高い値を示し、炭を添加した処理区で96%と最も高い値を示した。

2015年12月15日に開催したワークショップでは、これまで得られたフィールド試験の結果を発表し、チークの成長における炭の効果とベントナイトと肥料の相乗効果を紹介した。